

活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 地域学校協働活動の企画のヒント

➤ 企画の成り立ち

①問題に気づく

子どもやその学びや育ちの問題をつかむ

②問題の背景を知る

なぜその問題が起こっているかを分析する

③地域の文脈を知る

この地域でその問題が起こってくる地域独自の文脈を知る

④問題が解決された理想の姿を描く

めざすゴールのビジョン、イメージをみんなで描き共有する

⑤実現のための課題と取組を考える

どうすればゴールに到達できるか、具体的な取組のプランを考える

活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 地域学校協働活動の企画のヒント

➤ 企画から取組みへのステップ

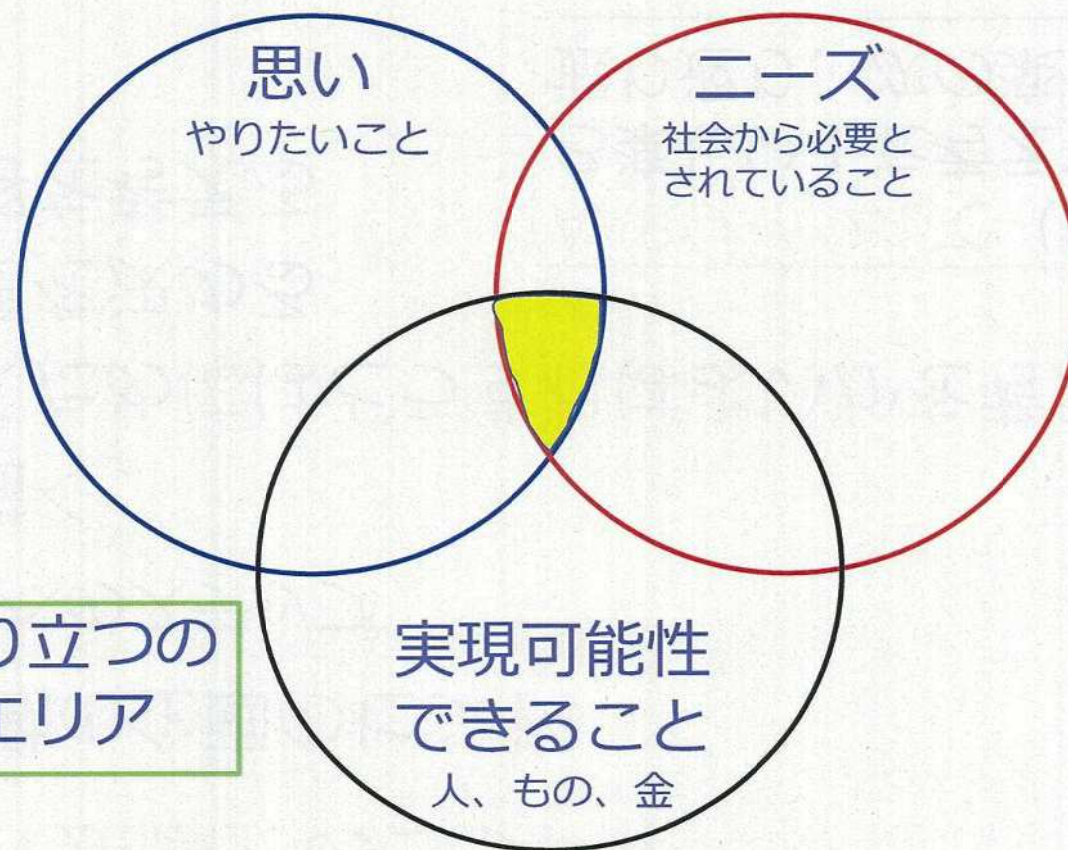
- ①理想の姿を描く
- ②理想に近づくためにはどうすればよいかを考える
- ③取り組む課題を決める
- ④取組みの内容を考える
- ⑤取り組む
- ⑥ふり返る
- ⑦次のステップ（次に取り組むことを考える）へ

AARサイクルで（これやったら楽しい！を考えて実行、振り返り、次の楽しいへ）

活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 地域学校協働活動の企画のヒント

➤ 企画の立て方



企画が成り立つのは黄色のエリア

活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 地域学校協働活動の企画のヒント

➤ 企画のポイント

- 時代性 今だから必要とされていることは
- 分野性 その分野で何が起きているか、その状況や流れなど
- 地域性 この地域でやるからこそその強み、弱み
- 組織性 自分たちの組織・グループの強み、弱み
- 魅力性 取り組むことは人々（子どもたち）に認められる魅力があるか

■ 活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 地域学校協働活動の企画のヒント

➤ 企画のための4 コミ

- | | |
|--------|------------------|
| ① マスコミ | 世の中全体の動きから |
| ② マチコミ | 町の中（地域）にある情報 |
| ③ ヒトコミ | 人を介して収集する情報 |
| ④ ウチコミ | 自分の中に積み上げられてきた経験 |

活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 地域学校協働活動の企画のヒント

➤ 企画立案のためのツール

◆ 企画シート

- シート例をつけています

◆ 資源把握（分析）用シート

- 今日行うワーク用シートもその一つ

◆ 他の組織や団体の好事例

- これまでの研修で学んだことや事例集などをヒントに

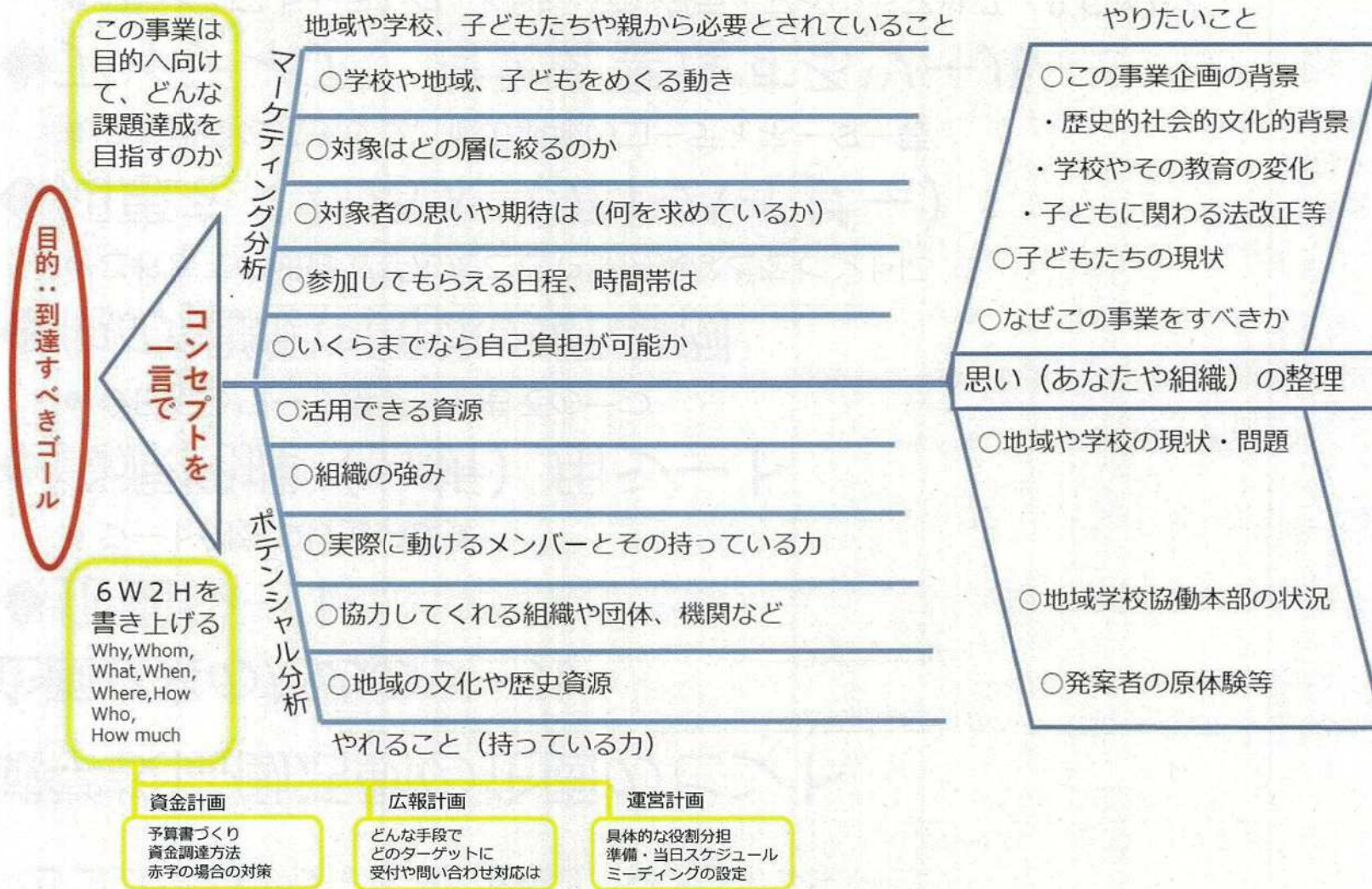
◆ 知恵をくれる人（アドバイザー）

- この研修のスタッフ、他の地域のコーディネーター等

◆ アイディア、考えを整理するツール

- フレインストーミング、KJ法、マンダラ、マインドマップ、PCMなど

個別の活動企画の立て方の図



地域学校協働活動用 企画シート

【与件（前提となること）】

- ・背景
- ・子どもたちの現状
- ・地域学校協働本部の状況
- ・学校や地域の現状（問題等）

【思い】

- ・あなたのこの活動への思い

【マーケティング分析】

地域や学校から必要とされていること
◆社会的な必要性や根拠データ

◆地域から

◆学校から

◆子どもから

【目的】
この活動で実現したい状況（ビジョン）
・地域の未来ビジョン

・子ども像

【設定する課題】
目的を実現するために必要な取り組み
◆地域の未来ビジョンの実現のため

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

◆子ども像の実現のため

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

【ポテンシャル分析】

できること

◆地域ができること
（諸団体・企業ボランティア等）

◆学校ができること

◆子どもができること

【活動の骨子】 分野ごと場ごとに整理する
全体で 地域で 学校で （家庭で）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

【活動展開のための仕組み】

◆地域学校協働本部組織の充実
より多くの参画へ、社教団体、NPO、企業等も

◆個人ボランティアのネットワーク

◆ステークホルダーの連携組織

◆その他

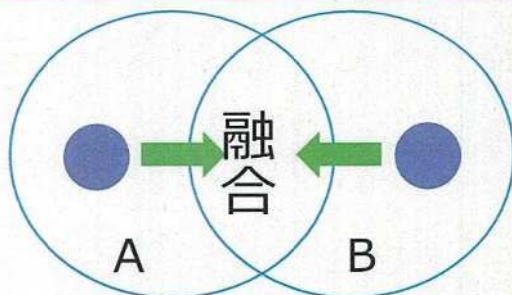
活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 地域学校協働活動の企画のヒント

➤ 発想のポイント

- 子どもの主体性をベースに
- 多様性の意図的な確保 = いろいろな人が参画できるオープンさ
- 異質なものの融合のメリットを出す

□ 意図的に「融合」を企画に組み込む



- 意図的にAとBの課題を重ねる
 - 物的・人的な資産の共有や協働の状態を意図してつくる
- ※双方のメリットを仕組むので長続きする

関わりあう2つ以上の機関や団体A・B同士が、双方の目指す目的を同時に果たし、新しい価値をも生むように、はじめから意図して仕組む。

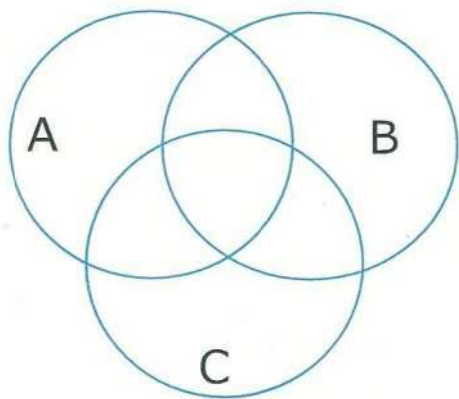
活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 地域学校協働活動の企画のヒント

➤ 発想のポイント

□ 「融合」を企画から仕掛ける

今まで別にやっていた活動と一緒にする（融合）ことでメリットが出ることを見つける



➤ 3者、4者の融合もありうる

➤ 異質な何を想定するかがポイント

- ① A = 学校、B = 地域、C = 行政はありきたり？
- ② A = 学校（子ども）、B = 高校、C = 外国人
- ③ A = 学校（子ども）、B = 高齢者、C = 商店街 etc.

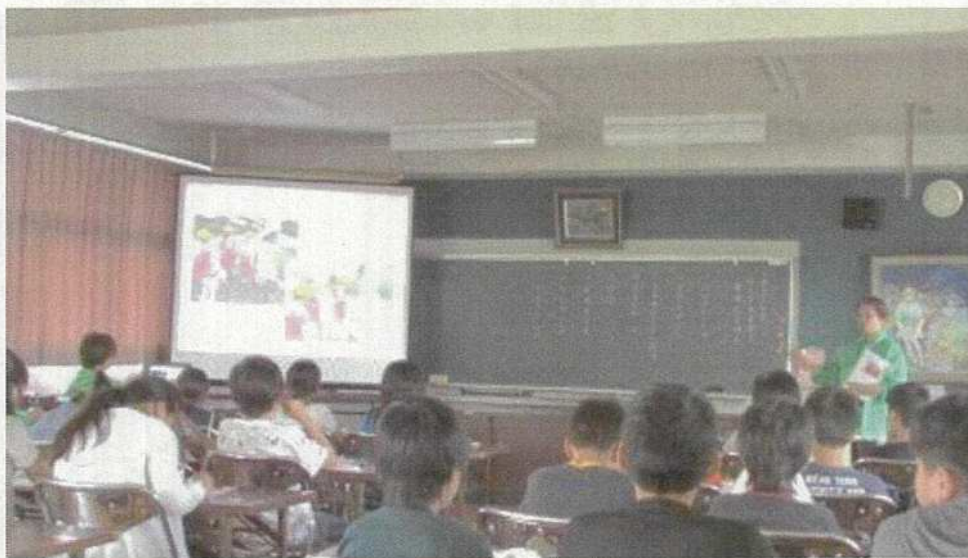
$$A (\quad) \times B (\quad) \times C (\quad) = ?$$

※ex. 学校×子ども×高齢者×民生委員＝大牟田市の子ども民生委員活動

「子ども民生委員」活動スタート！

中友小では、ESD（持続可能な開発のための教育）の一環として、5年生が「子ども民生委員活動」に取り組みます。この「子ども民生委員活動」は、中友小の最も特色ある教育活動で、住民の一人としてできることをしていこうという活動です。

中友小で行われた「子ども民生委員」委嘱状交付式では、中友校区社会福祉協議会の相川会長から、一人ひとりに委嘱状が手渡されました。地域の民生委員さんと一緒に地域の高齢者宅を訪問したり、「認知症SOSネットワーク模擬訓練」や地域の「街頭募金活動」に参加したりします。この「子ども民生委員」を通して、人と人とが「かかわり」「つながり」をもって、生活している地域を大切にすることができる心を育てています。（大牟田市ホームページから）



活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 「熟議」とは

文科省の解説

多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。
政策を形成する際、

- ①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まり
- ②課題について**学習**・熟慮し、討議をすることで
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まる
- ④解決策が洗練され
- ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる

というプロセスのこと

「ワークショップ」とほぼ同義!?

- ・いつも同じパターンで、たいして新しいことも出てこないし、マンネリぎみ？
- ・では、どうしたらいいの？ ⇒ 実は「学習」が抜けていませんか!?

■ 活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 地域学校協働活動を考える上で大切な考え方

子どもに関わる地域の△△の問題を解決するため、
〇〇に取り組もう、ではダメ

- 問題から出発すると失敗するのはなぜか
- 現状把握→問題点の抽出→解決策の決定→実施→評価のワナ
(PDCAではあるけれど)
- 原因を取り除けば解決という単純な問題ではないことが多い
- 何が悪い？何が足りない？と犯人捜しの結果、行政や誰かの責任を追及することになりがち

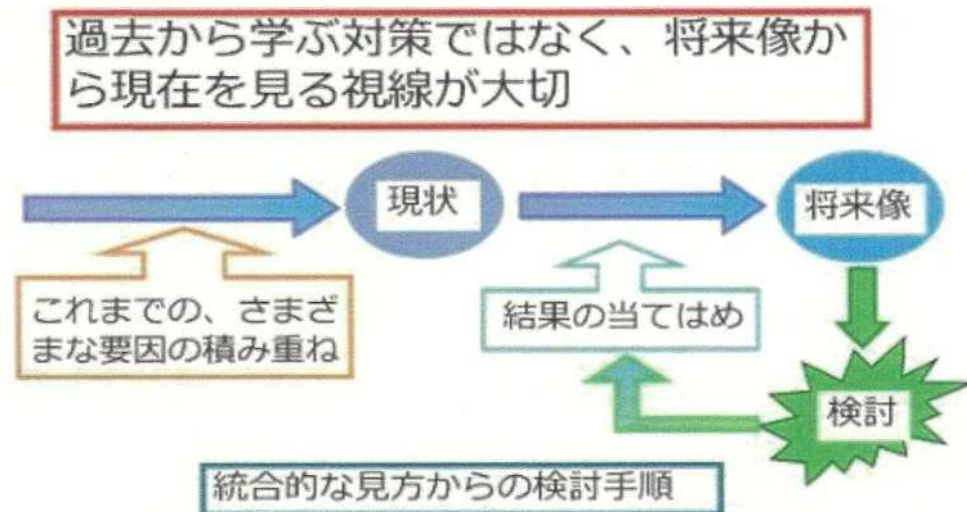
※そういう発想で熟議をやってもダメ。

活動を生み出す「熟議」のコツ

■ そもそも問題とは何か

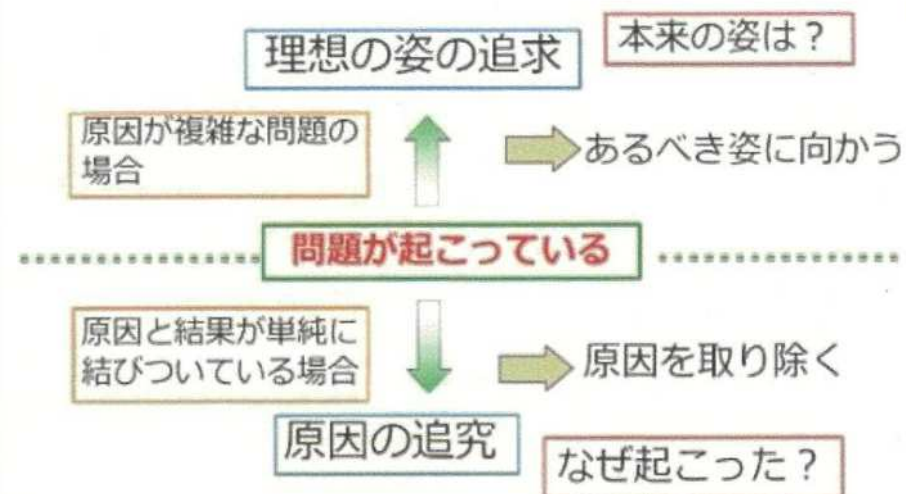
- あるべき姿と現実とのギャップ = 問題 (≠課題)
- 問題解決の方向は2つある

実現すべき未来から現在を見て考える



(ヘルスプロモーション研究センター吉永俊博氏の資料から引用)

問題の解決のための方法は2つある



(ヘルスプロモーション研究センター⁴⁷吉永俊博氏の資料から引用)

活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 達成すべき目的を、地域での具体的な子どもや、当事者のくらしや活動の姿として語ろう！

- ・ その姿を実現するために取組むべきことが**課題**
- ・ 課題を**達成**するための活動を計画的(年次的)に進めることが大切
- ・ 目的を具体的に描くとは

自主性・主体性を持った子ども

×

仲間とキャンプなどの自分たちがやりたいことを
企画・運営できる子ども

○

大切な考え方

バックキャストिंग

目的を描き、それを実現するための取組みを考えるやり方

①→⑦…の順番で進める

④

課題達成のための
取組みの計画を
みんなで作る

③

目的へ行きつくために
やるべきこと＝
「課題」を設定

①

現状

食料
不足

貧困

温暖化

Etc.

②

具体的
な姿

具体的
な姿

具体的
な姿

具体的
な姿

目的

(ゴール) = 持続可能な
地域や社会の未来像

2030年の目標
SDGs

⑦実践

Reflection

Action

目標

問題が解決された
めざすビジョン

Anticipation

⑥見直し

目標

Action

Reflection

Anticipation

⑤実践

Reflection

Action

Anticipation

〇年目

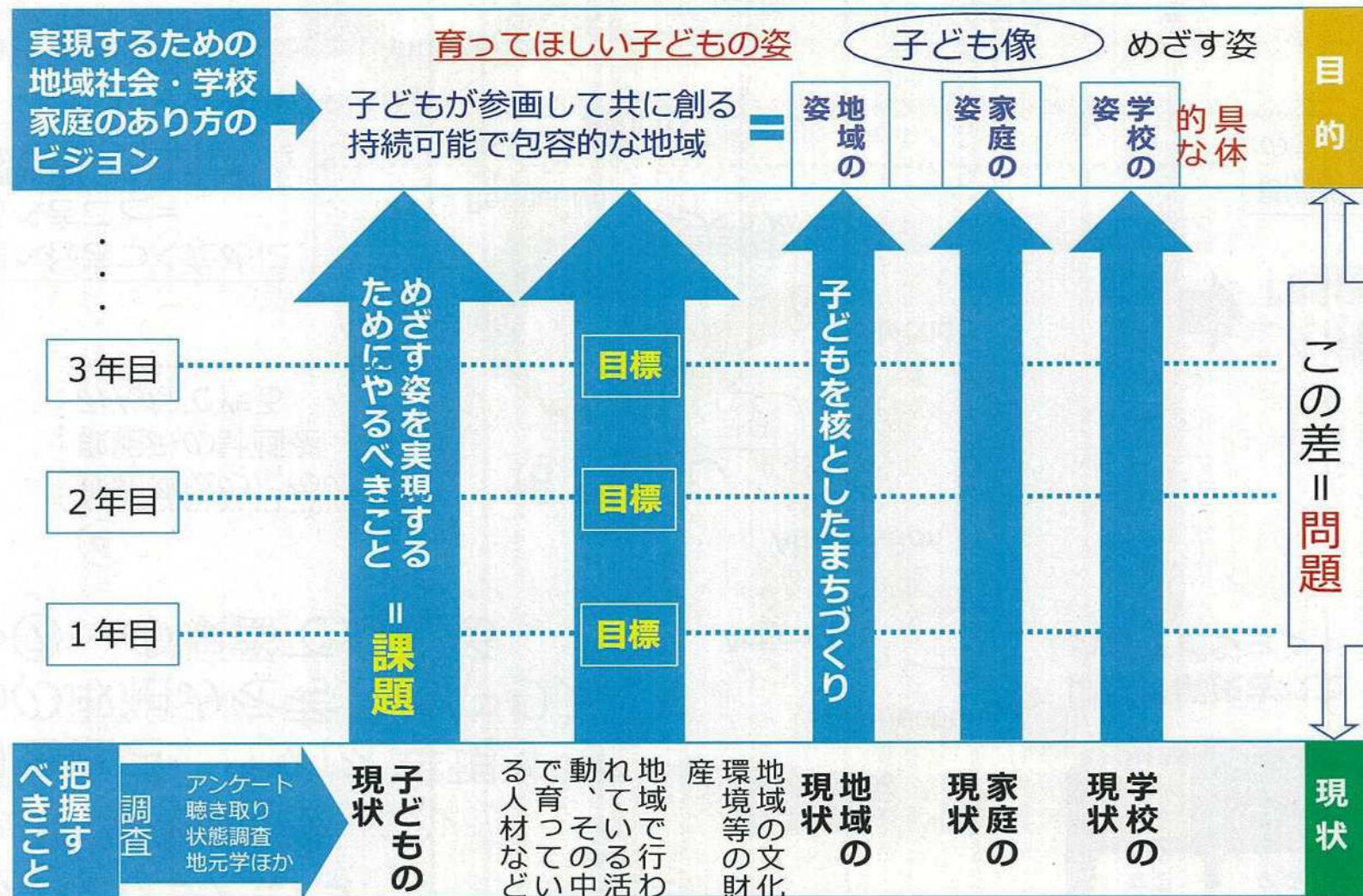
〇年目

この差が
「問題」

問題解決
のため

具体的な課題毎の実践の場面はAARの考え方で

バックカスティングで地域学校協働活動を作るためのイメージ図



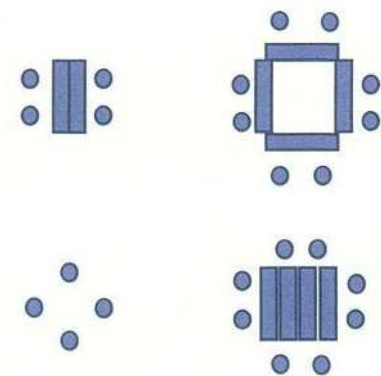
■ 活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 「熟議」（ワークショップ）の進め方

➤ 場づくり

①空間の物理的なデザイン

- 会場となる部屋の設定
 - ・十分な広さ（隣のグループとの距離）
 - ・お茶とお菓子のコーナーを作る
- グループサイズと机・椅子の使い方
 - ・4人がベスト、6人
まででグループを作る
 - ・長机なしでやってみよう



活動を生み出す「熟議」のコツ

■「熟議」（ワークショップ）の進め方

➤ 場づくり

②参加者の気持ちや関係性のデザイン

●会場の雰囲気づくりから

- ・音楽を流して参加者を迎える
- ・会場に装飾をすることも（海外からの参加者あれば国旗とか、風船で飾る手も）
- ・主催者の挨拶が形式的で固いと、せっかくの努力が・・・

●やる気を引き出すために大切なこと

- ・案内に何を書く？「熟議をします」ではわからない
- ・オリエンテーションで大切なオール（OARR）＝ボートのオールと同じでないと進まない
 - 期待する成果 O (Outcome)
 - 話し合うことと大まかな流れ A (Agenda)
 - 参加者の役割 R (Role)
 - 場のルール R (Rule)

活動を生み出す「熟議」のコツ

参加者の役割の説明例

- 進行役、タイムキーパー、情報提供者等の役割を振る
- 心を開いて参加し、自分を含めて前な体を観察する視点を持つなど
- L O V Eを使って説明

L	Listen	よく聞こう
O	Open	心を開こう
V	Voice	発言しよう
E	Enjoy	楽しもう

場のルール（Rule）の説明例

- 積極的に自分のもつ経験や情報、意見を出し合う
- 他者の意見を否定せず、しっかり聴き合う
- 平等な発言の機会を設ける（1人が長く話しすぎないように）
- 秘密の保持（プライバシーへの配慮）

活動を生み出す「熟議」のコツ

■「熟議」（ワークショップ）の進め方

➤ 場づくり

②参加者の気持ちや関係性のデザイン

●気持ちをオープンにさせ、対等な関係をつくる

- 子どもも参加しているなら、アイスブレイクをぜひ
心をオープンにさせ、話を出しやすくするため
簡単なゲームを使うことが多いが、チームづくりを狙うこともある

• まずはチェックインから

名前と所属、今の気持ちなど、メンバー全員が一人ずつ話す（一人1分で等）
どういう人が、どんな気持ちでここにいるのかを知り合うため必要

※OARRで説明したRule（ルール）のとおり、参加者同士は対等で、
連合町内会長だから強い発言力があるわけではなく、子どもも大人も対等の立場で話し合うことを再確認しておく

活動を生み出す「熟議」のコツ

■「熟議」（ワークショップ）の進め方

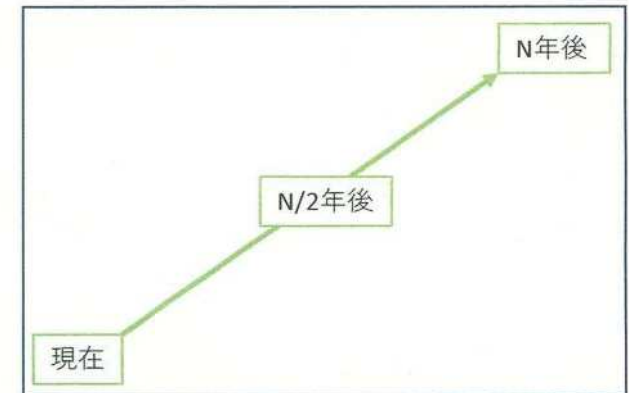
- 話し合うためのアクティビティを選ぶ
(テーマや目的によって選び分けること)

①ブレインストーミング+KJ法 with ポストイット

- 皆さんも一度は経験しているやり方？
- マンネリを感じて、モチベーションが上がらない？
- でも、うまくやると効果は大きい

②様々なフレームやチャートを使って

- 目的に合わせて活用
 - 今日はフォースフィールド分析に挑戦します
 - ビジョンづくりにはタイムマシン法 (N年後にになりたい姿を考え、N/2年後、N/4年後の姿を描く)も有効かも
- この方法でポストイットを使うことも有効です



これを模造紙に書いて、ポストイットを使ってワーク

10年後

お題はその時の課題から選ぶ

②10年後こうなっていたい
姿を具体的に

5年後

③そのために5年後には
こうなっていよう

現在

①現状と抱えている
問題点などを書き出す



■ 活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 「熟議」（ワークショップ）の進め方

➤ 熟議（ワークショップ）の展開

① オープニング

- ・ 主催者あいさつ
- ・ オリエンテーション
熟議のテーマやゴール、OARRやLOVEの説明など
- ・ アイスブレイク
- ・ チェックイン

② 熟議の話し合い

- ・ 必要な時はミニレクなども
- ・ 共有・発散・（混沌）・収束・共有のプロセス

③ クロージング

- ・ 成果を確認し、熟議を振り返る
- ・ チェックアウト 感想を一言ずつ伝え合う

活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 「熟議」 (ワークショップ) の進め方

➤ 熟議 (ワークショップ) の展開

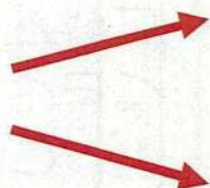
4つのステージ

①共有



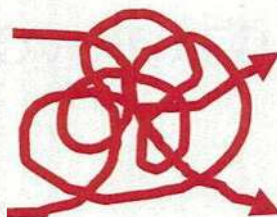
情報の共有
目的の共有
ルールの確認
お互いに知り
合う

②発散



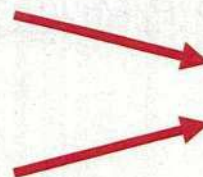
意見を出し合う
アイデアを広
げる
様々な可能性を
探る

混沌



生みの苦しみ
話し合い、
考え抜く

③収束



まとめる
整理する
絞り込む

④共有



振り返り
学習成果の
共有
次につなげる

■ 活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 熟議（ワークショップ）を通して固まった意識や発想を学びほぐす

➤ ファシリテーター（ファシリテーション）の役割

- 「参加者」が熟議（ワークショップ）の場で話し合いを進め、内容を深めたり、共有したりというプロセスをよりうまく進めるための手法
- チームで問題解決を図る時や組織の活性化を目指す時、まちづくりなどに関わる諸団体で合意形成が必要な時などにも役立つスキル
- その役割を担う人がファシリテーター

※空気を読み合って自由に話しにくい日常の中で、参加者が学びあおうという姿勢になり、聴き語ることで相互変容が生まれるような場を創り出すことが大切

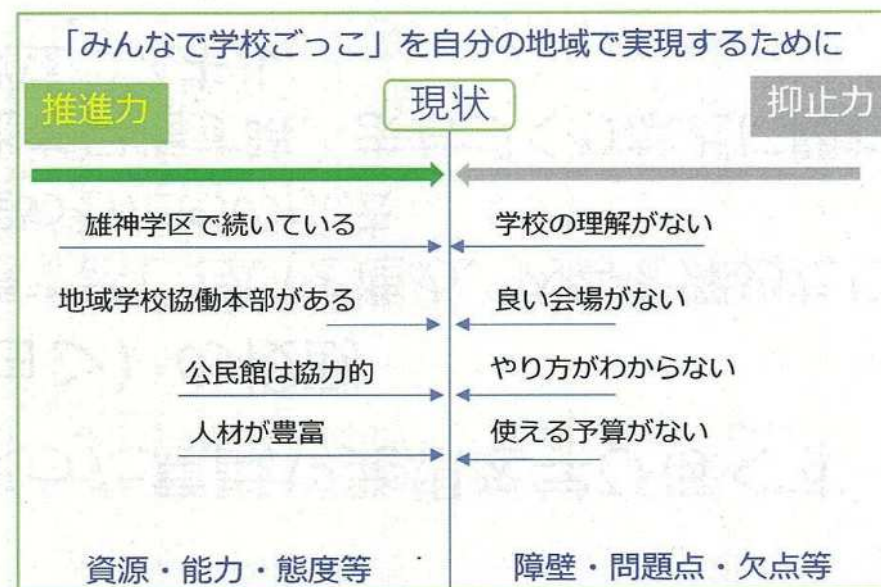
活動を生み出す「熟議」のコツ

■ 「熟議」(ワークショップ) を体験

➤ フォースフィールド分析を体験します

● お題 = 「みんなで学校ごっこ」を自分の地域で実現するために

- ◆ 何かを実現しようとする時に、それを進める際の障壁や問題、逆に推進力となるものは何かなどを見える化できます。
- ◆ 作用している力を理解し、障壁を取り除いたり、使える資源・強みなどをうまく生かすコツにつながります。特に解決すべき問題を特定することができます。



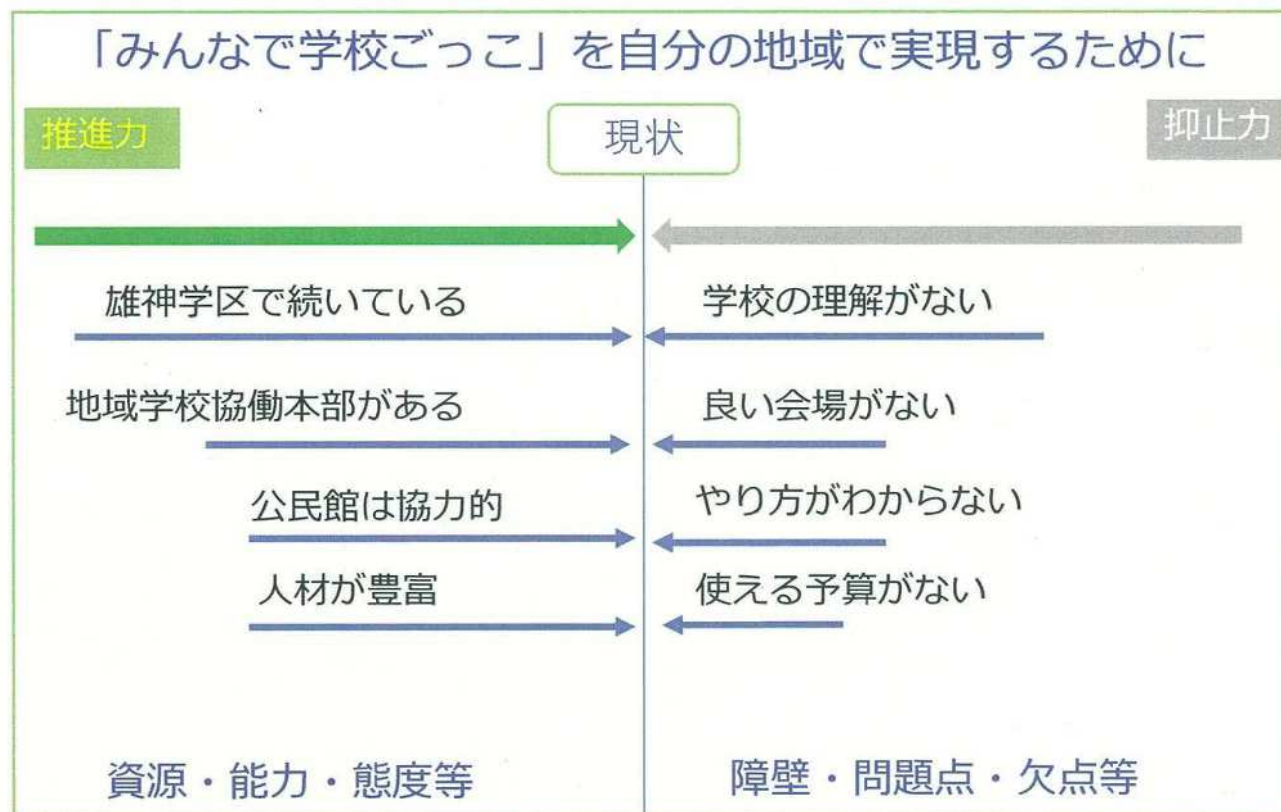
活動を生み出す「熟議」のコツ

➤ フォースフィールド分析の進め方

- ①上に課題を書きます。
- ②真ん中に縦線を書きます。
- ③左側に推進力、右側に抑止力となる要素を考えて書き込みます。

(矢印の長さ、太さ、色で強さや性格を表すことができます。)

※要素をすべて書き込んだら、推進力を強め、抑止力を小さくする方法をブレインストーミングして整理する。



ここからはワークショップの実践です！
練習ですから、楽しんでやりましょう。

■役に立つ本や資料の紹介

- 「ワークショップデザイン」、「ロジカル・ディスカッション」、「ファシリテーション・グラフィック」、「アイデア・イノベーション」（堀 公俊、加藤 彰著、日本経済新聞出版社、2008年、2009年、2006年、2012年）
- 「教育研修ファシリテーター」（堀 公俊、加留部貴行著、日本経済新聞出版社、2010年）
- 「ファシリテーション実践から学ぶスキルとところ」（中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美編著、2009年、岩波書店）
- 「学びあう場のつくり方」（中野民夫著、2017年、岩波書店）
- 「ファシリテーター・ハンドブック」（イングリッド・ベンズ著、荻野亮吾他訳、2023年、明石書店）
- 「ファシリテーター養成講座」（森 時彦著、2007年、ダイヤモンド社）
- 「ファシリテーションを学校に」（青木将幸著、2018年、ほんの森出版）
- 「地域づくりワークショップ入門」（傘木宏夫著、2004年、自治体研究社）
- 「参加体験型学習ハンドブック」（国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、平成21年）
- 「ファシリテーションのすすめ」（公益財団法人モラロジー研究所、平成30年）
- 「ワールド・カフェをやろう！会話がつながり、世界がつながる」（香取一昭・大川恒編著、2009年、日本経済新聞出版社）
- 「えんたくん革命1枚のダンボールがファシリテーションと対話と世界を変える」（川島直・中野民夫編著、2018年、みくに出版）
- 「生涯学習支援論ハンドブック」（国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、令和2年）